慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Spirituality as a way : the wisdom of Japan
Sub Title	
Author	樫尾, 直樹(Kashio, Naoki)
Publisher	福澤基金運営委員会
Publication year	
Jtitle	福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	本書『道としてのスピリチュアリティ - 日本人の智慧』は、序章「現代スピリチュアリティ研究の諸問題」に続いて、第一部「グリーフケアのスピリチュアリティ」、第二部「スピリチュアルケアのスピリチュアリティ」、第三部「瞑想と自己修練」、第四部「グローカル文脈における世界観」の四部構成となっており、間に宗教実践者と自然科学者にとってのスピリチュアリティに関する試論を配置し、計十二篇の論文で構成されている。 本書全体で、現代日本社会におけるスピリチュアリティの現象的特徴と、西洋的スピリチュアリティとは異なった日本的スピリチュアリティ（「日本的霊性」）の特質を明らかにすることを通して、現代スピリチュアリティ研究の新たな視座を提示することができた。その日本的スピリチュアリティの特徴は、①身体的修練という理解の方法、②不可視の生体エネルギー（「気」）としての働き、③所与としての自他の内在的つながり、④聖俗分離以前の社会的一元論、⑤在り方・生き方としての「道」、の五点である。 これら五点が、具体的には、第一部では東日本大震災後の遺族の悲嘆の実態と日本的スピリチュアリティによる悲嘆への応答において、第二部では日本的なスピリチュアルケアのあり方のモデル化と日本人のワーキング・スピリチュアル・ペインの特徴とそれに対処しうるキャリアカウンセリングの可能性において、さらに第三部では義塾が生んだ世界的碩学、井筒俊彦の比較宗教哲学から出発して禅哲学とその他の日本的瞑想実践が醸成するスピリチュアリティにおいて、そして最後の第四部では日常生活性における実存的問いしてのスピリチュアリティの重要性や、宗教的スピリチュアリティの中核を形成する輪廻転生観の日本的特徴、および現代ヒンドゥーイズムの非二元的世界観の日本における移植の特徴において、詳細に論じられている。 本書は当初『課題としての霊性研究』と主題化されていたが、編集過程において日本人が英語で発信することの示差的価値を探究する中で、上記五点の日本的スピリチュアリティの特徴が収斂する「道」の思想＝実践を、各論文のテーマに共通する大テーマとして発見できたので、『道としての霊性（スピリチュアリティ）』として本書を上梓した。
Notes	申請種類：福澤基金出版補助
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-00002020-0059

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福澤基金（出版補助） 2020（令和３）年度

研究代表者	所属	文学部	職名	准教授
	氏名	樫尾　直樹		

研究課題

Spirituality as a Way : The Wisdom of Japan

研究成果実績の概要

本書『道としてのスピリチュアリティー日本人の智慧』は、序章「現代スピリチュアリティ研究の諸問題」に続いて、第一部「グリーフケアのスピリチュアリティ」、第二部「スピリチュアルケアのスピリチュアリティ」、第三部「瞑想と自己修練」、第四部「グローカル文脈における世界観」の四部構成となっており、間に宗教実践者と自然科学者にとってのスピリチュアリティに関する試論を配置し、計十二篇の論文で構成されている。

本書全体で、現代日本社会におけるスピリチュアリティの現象的特徴と、西洋的スピリチュアリティとは異なった日本的スピリチュアリティ（「日本的霊性」）の特質を明らかにすることを通して、現代スピリチュアリティ研究の新たな視座を提示することができた。その日本的スピリチュアリティの特徴は、①身体的修練という理解の方法、②不可視の生体エネルギー（「気」）としての働き、③所与としての自他の内在的つながり、④聖俗分離以前の社会的一元論、⑤在り方・生き方としての「道」、の五点である。

これら五点が、具体的には、第一部では東日本大震災後の遺族の悲嘆の実態と日本的スピリチュアリティによる悲嘆への応答において、第二部では日本的なスピリチュアルケアのあり方のモデル化と日本人のワーキング・スピリチュアル・ペインの特徴とそれに対処しうるキャリアカウンセリングの可能性において、さらに第三部では義塾が生んだ世界的碩学、井筒俊彦の比較宗教哲学から出発して禅哲学とその他の日本的瞑想実践が醸成するスピリチュアリティにおいて、そして最後の第四部では日常生活性における実存的問いしてのスピリチュアリティの重要性や、宗教的スピリチュアリティの中核を形成する輪廻転生観の日本的特徴、および現代ヒンドゥーイズムの非二元的世界観の日本における移植の特徴において、詳細に論じられている。

本書は当初『課題としての霊性研究』と主題化されていたが、編集過程において日本人が英語で発信することの示差的価値を探究する中で、上記五点の日本的スピリチュアリティの特徴が収斂する「道」の思想＝実践を、各論文のテーマに共通する大テーマとして発見できたので、『道としての霊性（スピリチュアリティ）』として本書を上梓した。

【研究分担者・研究協力者】

加藤眞三	看護医療学部・教授
カール・ベッカー（協力者、以下同）	京都大学・医学部・教授
瀬藤乃理子／伊藤雅之	福島県立医科大学・准教授／愛知学院大学・文学部・教授
廣田奈穂美／竹倉史人	(株)クレアディーバ・代表／東京情報大学・看護学部・非常勤講師
伊藤高章　／本山一博	上智大学・グリーフケア研究所・教授／玉光神社・宮司
中川吉晴　／村上和雄	同志社大学・社会学部・教授／筑波大学・名誉教授
林貴啓	同志社大学・社会学部・嘱託講師

本研究課題に関する発表			
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所･講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）

本出版物に関する事項			
発行人	発行所	印刷所	発行年月日
末原達郎	京都大学学術出版会	大日本印刷	2021 年 3 月 29 日
発行部数	定価	配布または寄贈先	
		関係機関その他	備考
434	4,500 円（税別）	慶應義塾大学、京都大学、同志社大学、愛知学院大学、福島県立医科大学、国際科学振興財団、上智大学、東京大学、北海道大学、南山大学、國學院大学、京都精華大学、千葉大学、フランス国立高等研究院、フランス国立社会科学高等研究院、フランス国立科学研究センター、バーミンガム大学、スタッフォードシア大学、オーフス大学、ベネチア大学、ハーバード大学、ソウル大学、漢陽大学、東西大学、セネガル大学他。	